

韓国・釜山の室内射撃場で起きた火災事故は日本人男性観光客7人の犠牲者を出した。いずれも現地の射撃ツアーパートicipantだが、場所によってはズサンな管理の「要注意ゾーン」もある。

火災で邦人7人犠牲 釜山だけじゃない

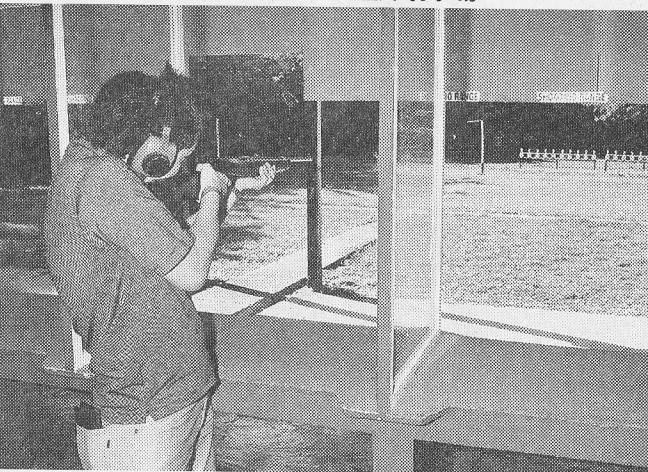


16日、いまだ規制が続く火災があった釜山の射撃場が入るビル（共同）

危ない射撃場はここにある

タイ・フィリピン
グアム、サイパン

写真はサイパンの屋外射撃場



暴発しそうな銃渡され

いろいろな国の射撃場を見てきたが、ボロボロの拳銃を置いて、暴発するんじゃないとか心配するところもある」と話すのは、米国F.R.P連邦捜査官で銃の取り扱いに詳しいバウンティーハンターの荒木秀一氏（45）だ。

実弾射撃は日本では禁止されているが、韓国をはじめ、タイやフィリピン、ハワイ、グアム、サイパンなどでは多くの射撃場が存在

「拉致されたのはうちの職員ではなく、経済協力関係者。この人がかかわっている。日本大使館は本人から携帯電話で連絡があり、拉致を確認。交渉が現在続いているとして、日本人の名前や所属などを明らかにしていない。

西部マーリングを旅行しているという。東京都千代田区にあるJICA本部の担当者は、「外務省に聞いてくたまつた」と繰り返した。また、

控室にはストーブがある

射撃場というのは広大な敷地に造られた屋外型から、細長い廊下を並べたような屋内型までさまざま。今回、火災のあつた釜山の場合は、店舗が密集して消防車も入りにくい繁華街の雑居ビルの中にあった。

火災は、空氣中や床にたまっていた火薬の粉じんに引火、爆発した可能

性が高まり、「射撃の際に起きる火花が引火にながった」という見方も出ている。ところが、店内では「自由にたばこが吸えた」という日本人客

の証言や、「控室にストーブが置かれていた」というイメージを元警察など、大量の薬を扱う場所での不備も明らかになつた。ソウルの射撃場店舗が置かれていた元警察など、大量の薬を扱う場所での不備も明らかになつた。すべての面から安全態勢が問われる。利用者も細心の注意を払うことがある。

イエメンで日本人拉致

【カイロ】イエメンの首都リマスア近郊で15日、日本人援助関係者1人とイエメン政府が地元部族との間で2人間の釈放に向けた交渉を行つており、政府当局者は現地時間16日、男性は丁重に扱われ健康状態に問題はなく元気だと明らかにした。同政府は2人の所在を把握しているという。

政治的背景はなし

要求はなく、政治的な背景はないもようだといふ。日本大使館は本人から携帯電話で連絡があり、拉致を確認。交渉が現在続いているとして、日本人の名前や所属などを明らかにした。同大使館当局によると、拉致されたの部族民は、イエメン当局に拘束されている親族の釈放以上の男性。イエメン政

府はJICAはお手伝いしているだけで直接の当事者ではない」と強調した。イエメンでは昨年5月、日本人女性2人が武装した地元部族の男らに誘拐された翌日解放される事件が起きていた。

西日本マーリングを旅行しているという。東京都千代田区にあるJICA本部の担当者は、「外務省に聞いてくたまつた」と繰り返した。また、

「小林宏路